

STVの活動経緯と今後の課題（博物館フォーラム「ジオパークにおける博物館の役割と学生参加のあり方」

伊豆半島ジオパークとふじのくに地球環境史ミュージアムについて」）

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-05-30
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 井口, 美奈
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://doi.org/10.14945/00010183

発表

STV の活動経緯と今後の課題

井口 美奈（静岡大学登呂博物館ボランティア）

STVとは、静岡大学登呂博物館ボランティアの略です。静岡市立登呂博物館は登呂公園の一角にあり、弥生時代後期の水田・住居跡である登呂遺跡に隣接しています（図1）。この遺跡の特徴は、そのころの人たちの生活をとてもよく知ることができる点です。登呂博物館にも、人々の生活に関して詳しく知ることができる展示物があり、当時の暮らしの体験学習もできます。図2は、屋上から見た遺跡の写真です。弥生時代の人々が日常的に生活していた場所で、私たち現代人も日常生活を送っていることがよく分かる写真だと思います。

■STVの活動

私たちSTVは、登呂博物館のイメージキャラクター「トロバー」に変身して、博物館にきた皆さんや館外で行われるイベントに登場することで、博物館についてより知ってもらうきっかけづくりをしています。トロバーと触れ合い、親しみを持ってもらうだけでも、登呂遺跡に興味を持ってもらうことができ、教育普及につながると考えています。

STVのメンバーは、歴史コースが含まれている人文社会科学部だけでなく、教育学部、理学部を含めて1～3年生計12名で活動していて、歴史や学芸員とはそれほど関係のない進路を志向している人も入っています。

STVの活動は、学芸員だけでトロバーを動かすのは難しいことから、山田真才前館長の発案によって始まりました。最初は短期ボランティアの予定でしたが、山田館長が転任するときに、活動の継続について話し合われ、博物館と学生の関係性を維持していくことは双方にとって必要だという結論に至り、現在のSTVが創設されました。現在行っている活動は、トロバーに扮して来館者と触れ合う、登呂地区内外のイベントへの参加と企画、ミーティング、そして最近始まった新聞製作です。それぞれの活動について、写真を見ながら説明します。

図3は活動の様子ですが、さまざまな人と触れ合って、登呂遺跡と博物館をアピールしています。子どもたちが近寄ってきたら、トロバーの頭が竪穴住居になっていることをクイズ形式で伝えたりしています。また、館外のイベントにも出張して、皆さんに知っていただく活動をしています。

「シズオカ×カンヌウィーク」というイベントでも活躍しました（図4）。博物館の方から、トロバーがおめかしして登場できないかというお話があったので、メンバーで話し合い、フェルトのフランス国旗を付けた帽子などを作って、特別なトロバーを演出しました。



図1 上：登呂博物館外観、下：登呂遺跡



図2 屋上からみた登呂遺跡

地域で毎年行われている登呂まつりのときには、お祭りに来た子どもたちに登呂遺跡や弥生時代について知ってもらうための企画をしています。このまつりは登呂遺跡の広場を利用して行われるので、博物館自体に興味を持っていただけるように、クイズラリーやスタンプラリーなどを行って、子どもたちにトロベアのシールなどを景品としてあげています。また図5のように、私たちも他のボランティアが行っている体験活動にお邪魔して火起こしの体験をするなど、メンバーにとってもいい思い出になる活動です。

月1回程度のミーティングでは、活動日の決定やイベントの企画、活動方針の確認などを行い、メンバー内で意見交換して、いい案を吸い上げています。新しい活動の新聞製作は、私たちが登呂遺跡にいらっしゃる他のボランティアや職員の方々とコミュニケーションを図る目的で始めました。その方たちの活動や思いを知るためにインタビューを行っています。

これらの活動は、新聞などのメディアにも時々取り上げられています。その他、YouTubeに「まるちゃんの静岡音頭」がアップされていて、トロベアが踊っている姿が3秒ほど映っていますので、ぜひ検索してご覧ください。

しかし、STVには大きな課題もあります。それは人員不足です。私たちは、負担の重くない、学習や部活と両立できる組織でありたいので、活動も月1回程度にし、不定期なイベント参加も私たちが活動できる範囲で行っているのですが、みんな他のこともしていて忙しく、全体のメンバーが少ないためなかなか活動に人が集まらないのが課題です。

■学生団体を創設・維持していくには

そこで、これまで私たちが活動を通して感じたことを皆さんにお伝えすることで、これから何か活動をしていきたい人の参考になればと思い、学生団体を創設・維持していくにはということでお話をさせていただきます。それにはまず、ミッションの確立・明文化がとても大切です。これは、モチベーションを維持する上で不可欠です。ミッションはずっと同じではなく、時には変更されるかもしれませんが、定期的な話し合いが行われることで、メンバー間で共有されていきます。目標を明確にすることが大切なのです。

そして、博物館にとってのメリットと、学生にとってのメリットが両立されていることが大切です。そのためには博物館と学生側がこまめに連絡を取り合い、お互いの意図を伝え合って、コミュニケーションをとることが重要で、一方的であってははいけません。コミュニケーションがないと、メンバーは自分たちがただの労働力として使われているような印象を抱きがちです。ですから、学生自身も自分たちのやりたいことを伝えられ、博物館側も学生にしてほしいことを伝えられるような、双方向のコミュニケーションが必要です。

次に、活動する学生の幅を広げていくことです。私たちは春に勧誘活動をしています。これは新入生に興味を持ってもらうためです。また、STVは学芸員資格取得希望者にとってメリットのある活動ですが、そのような括り方をするとメンバー不足につながる恐れがあります。子どもとのコミュニケーションやふれあいができるなど、資格を抜きにしたPRも必要だと考えています。これまでの宣伝は、学芸員科目の授業での簡単なガイダンスとビラ配りが主流でしたが、これだけでは不十分だったかもしれません。学生の限られた時間であっても、例えばTwitterやFacebookなどのSNSや生協への協力依頼など、まだできることはあると思います。さまざまなメディアや他の団体との関わりを通して、メンバーを広げていくことが



図3 トロベア活動風景



図4 シズオカ×カンヌウィークでの演出



図5 火おこし体験

とても大切だと思っています。

さらに、短期的な活動だけでなく、長期的なプロジェクトにしていくにはどうするかということです。普段の活動以外にも自分たちで企画を行い、活動を活性化させることが大切です。同じ活動をずっと続けるだけでなく、イベントへの参加など突発的な誘いがあったときにはその中で何を行うか企画をし、成功することによって、「私たちはできる」という良い循環をつくっていくことが重要だと思っています。しかし、そのためには環境と計画性がなければいけないと思っています。みんなで話し合うミーティングの場や、言いたいことを言える雰囲気をつくることも大切ですが、やはり時間の問題があり、テストの期間など忙しいときはどうしても活動に参加できないことがあるので、時間的な余裕なども含めた環境や計画性がとても大切になってくると思います。

そして、仕事の分担も重要です。忙しくて長い間活動に参加できないときでも、各自が常に何らかの関わりを持てるようにすることが必要です。それほど負担にはならないけれども、少し仕事があるという状態をずっと続けていけるような仕事の割り振り方が、活動から疎遠にならずに続けていくための下地になると思います。また、他のボランティア団体との連携も必要です。私たちだけで活動するのではなく、地域の方や博物館の別団体でボランティア活動をしている方々と良い関係を築きながら交流していくことがとても大切だと思います。

STVがこれからどうなるか、いろいろと考えなければならないことはありますが、登呂博物館のボランティアはまだ必要だと思います。